



兵庫県議会日ロ友好訪問団 調査報告書

兵庫県・ロシア連邦ハバロフスク地方
友好提携50周年記念

〔ロシア連邦 ハバロフスク市〕

令和元年8月18日（日）～21日（水）

目 次

1	はじめに	1
2	兵庫県議会日ロ友好訪問団名簿	2
3	訪問団行程表	4
4	訪問の目的	5
5	各行事の概要	
	I 友好交流に関する公式行事	
	(1) 友好提携 50 周年共同声明調印式	7
	(2) 記念レセプション	10
	II その他の調査の概要	
	(1) 日本人墓地墓参	11
	(2) ハバロフスク日本センター	12
	(3) ハバロススク地方自然保護区統括センター	15
	(4) プリアムールスキー動物園	17
	(5) ハバロフスク地方議会	19
	(6) 在ハバロフスク日本国総領事館	22
	(7) 大ヘフツィール国立自然保護区	23

1 はじめに

令和元年8月18日から8月21日までの4日間、兵庫県議会日ロ友好訪問団として、全10名の議員が、ハバロフスク地方との交流50周年を記念した事業に参加するとともに、現地の日本語学習者との交流やコウノトリや自然保護関連施設の調査を行った。

調査初日、まず日本人墓地へ墓参して日本人抑留者のご冥福を祈念し、その後、ハバロフスク日本センターを訪問し、現地の日本語学習者と交流した。

ハバロフスク地方自然保護区統括センターでは、ハバロフスク地方のコウノトリ保護増殖の取組について聴取するとともに意見交換を行い、また、プリアムールスキー動物園では、希少動物の飼育状況を視察した。

在ハバロフスク日本国総領事館では、ハバロフスク地方の政治・経済の概要について理解を深め、ハバロフスク地方議会では、同地方議会の議長及び議員との意見交換を通じて、親睦と交流を図ることができた。

友好提携50周年共同声明調印式では、これまでの50年間の友好交流の成果の確認とともに、今後の一層の交流の推進について合意し、調印が行われるとともに、新たにこども病院間の提携の覚書の交換が行われた。

最終日は、ハバロフスク郊外にある大ヘフツィール自然保護区内の博物館を視察するとともに、同自然保護区の現地調査を行った。

我々訪問団は、訪問する先々において、ロシア語での「恋のバカンス」の合唱を行うなど友好を深め、3泊4日という短期間であったが、大変有意義な訪問となった。このような友好と交流が今後ますます発展するように、県議会としても一層の取組を行っていききたい。



Делегация Ассоциации членов префектурального собрания Хёго
за дружбу между Японией и Россией

兵庫県議会議員日口友好訪問団



(団長)
長岡 壯壽
自由民主党
議長
健康福祉常任委員会委員

(Глава делегации)
НАГАОКА Содзю
Либерально-демократическая партия (ЛДП)
Председатель собрания
Член Комитета по здравоохранению и
социальному обеспечению



(事務局長)
小西 隆紀
自由民主党
総務常任委員会委員

(Ответственный секретарь)
КОНИСИ Таканори
ЛДП
Член Комитета по общим делам



(団員)
森脇 保仁
自由民主党
総務常任委員会委員

(Член делегации)
МОРИВАКИ Ясуро
ЛДП
Член Комитета по общим делам



(団員)
大谷かんすけ
自由民主党
警察常任委員会委員

(Член делегации)
ОТАНИ Кансукэ
ЛДП
Член Комитета по полиции



(団員)
福島 茂利
自由民主党
警察常任委員会委員

(Член делегации)
ФУКУСИМА Сигэтоси
ЛДП
Член Комитета по полиции



(団員)
坪井 謙治
公明党・県民会議
警察常任委員会委員長

(Член делегации)
ЦУБОИ Кэндзи
Нью Комэйто / Префектуральный гражданский совет
Председатель Комитета по полиции



(団員)
岡 つよし
自由民主党
警察常任委員会委員

(Член делегации)
ОКА Цуёси
ЛДП
Член Комитета по полиции



(団員)
奥谷 謙一
自由民主党
文教常任委員会委員

(Член делегации)
ОКУТАНИ Кэнъити
ЛДП
Член Комитета по просвещению



(団員)
中島 かおり
無所属
総務常任委員会委員

(Член делегации)
НАКАДЗИМА Каори
Независимая
Член Комитета по общим делам



(団員)
北上 あきひと
ひょうご県民連合
建設常任委員会委員

(Член делегации)
КИТАУЭ Акихито
Гражданский союз Хёго
Член Комитета по строительству

3 訪問団行程表

日	着 (開)	発 (終了)		備考
8月18日(日) 1日目	9:25 18:30	8:00 14:35	伊丹空港発 成田空港 ハバロフスク空港着	JAL JL-3004 シベリア航空 S7-6442 ハバロフスク泊
8月19日(月) 2日目	8:40 10:00 14:00 16:00	9:10 11:30 15:30 17:00	日本人墓地墓参 ハバロフスク日本センター視察 ハバロフスク地方自然保護区統括センター視察 プリアムールスキー動物園視察	 ハバロフスク泊
8月20日(火) 3日目	11:00 14:30 16:00 18:00	12:20 15:20 17:00 19:30	ハバロフスク地方議会議長表敬訪問・意見交換 在ハバロフスク日本国総領事館訪問 友好提携50周年共同声明調印式 記念レセプション	 ハバロフスク泊
8月21日(水) 4日目	9:30 18:00 21:05	11:30 16:00 19:20	大ヘフツィール自然保護区視察 ハバロフスク空港発 仁川空港 関西空港着	 アジアナ航空 OZ-571 アジアナ航空 OZ-116

4 調査等の目的

本年は、ロシア連邦・ハバロフスク地方との友好提携 50 周年を迎えることから、兵庫県として友好代表団を派遣するとともに、現地において表敬訪問やレセプション等の各種記念事業の実施が実施された。

今回、議会に対し知事から記念事業への出席要請があったこと、また、これまでから、日ロ友好議員連盟の活動等を通じ、日ロ両国の友好交流活動を進めてきたことから、議会として友好訪問団を組織し、記念レセプション等に参加するとともに、首長や地方議会との交流を通じ、本県とハバロフスク地方との友好交流の一層の発展に貢献することとした。

あわせて、現地における日本語学習者との交流を図るとともに、ハバロフスク地方におけるコウノトリの保護増殖や自然環境保全の取組について現地調査を実施した。

日 程	調査先等	調 査 目 的 等
8月19日（水）	日本人墓地墓参	ハバロフスク市郊外の日本人墓地を訪問し、旧ソ連に抑留された軍人軍属の物故者への献花を行う。
	ハバロフスク日本センター	同センターの事業概要及び日本語教育の取組について聴取するとともに、ハバロフスクにおいて日本文化や日本社会への興味・関心、またビジネス目的などにより日本語を学ぶ者との交流を図る。
	プリアムールスキー動物園	平成24年に本県が寄贈したコウノトリ4羽を飼育していた同動物園における、ロシア極東地域の動物・鳥類や、その飼育状況を調査する。

	ハバロフスク地方自然保護区統括センター	ハバロフスク地方全域の自然保護区を統括する同センターにおけるコウノトリの保護・増殖の取組を調査することにより、本県のコウノトリの保護・増殖の取組の参考とする。
8月20日（火）	ハバロフスク地方議会 議長表敬訪問・意見交換	両県地方議会のさらなる交流に向け、議長を表敬訪問し、議員間で意見交換するとともに、議場を見学し、本県における議場の再整備の参考とする。
	在ハバロフスク日本国総領事館	日本とロシアの交流の拠点である同総領事館を知事団とともに訪問し、現地事情を聴取し、意見交換を行う。
	友好提携50周年記念事業（共同声明調印式、記念レセプション）	友好提携50周年を迎えた両県地方の交流の成果及び今後の推進方針を盛り込んだ共同声明の調印式に立ち会うとともに、交流を深める。
8月21日（水）	大ヘフツィール国立自然保護区	絶滅危惧種のアムールタイガー等が生息する同自然保護区を視察することにより、今後の本県における自然環境保全施策の参考とする。

5 各行事の概要

I 友好交流に関する公式行事

(1) 友好提携 50 周年共同声明調印式

○日時：令和元年 8 月 20 日（火）16:00～17:00

○場所：ハバロフスク 地方政府公館

○参加者：

（ハバロフスク 地方）セルゲイ・フルガル 知事ほか 地方政府高官 全 10 名

（兵庫県）井戸 知事、県議会友好訪問団、県民交流団ほか 全 29 名

（在ハバロフスク 日本国総領事館）福島 総領事、諸富 副領事

○内容：

セルゲイ・フルガル 知事から、過去 50 年間の交流に関し、このとりプロジェクト、ニューリーダー事業、青少年スポーツ・少年少女交流事業等が継続して行われ、両地域の信頼関係の構築や地域の発展に貢献していること、また、ハバロフスク 地方は現在アムール川が台風による氾濫を起こしているが、このような自然災害に対する防災に関しても相互に協力を期待する旨の発言があった。

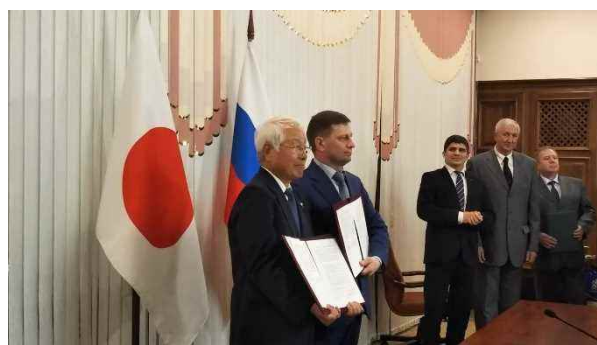
井戸 知事からは、アムール川の氾濫という時に訪問団を受入れて対応して頂いたことに対するお礼とともに、両地域は人と人、地域と地域の顔の見える交流を 50 年間行い、経済面における事業協力、人材育成事業そして青少年交流事業などを通して貴重な財産を築きあげてきたこと、また、今後ともこのような交流を深め、このとりプロジェクトに関しては



再度、兵庫県から贈るよう検討すること、医療に関してはこども病院間の提携のほか先端医療分野での交流も深めたい旨の発言があった。また、関西とハバロフスク間の直行便について、セルゲイ・フルガル 知事から関係機関へ働きかけを行っていただくことや、日ロ両政府が 2020 年～2021 年を日ロ地域・姉妹都市交流年と位置づけていることに合わせて、知事を代表とするハバロフスク 地方訪問団の兵庫県への来県を求めた。

セルゲイ・フルガル 知事は兵庫県を訪問することに賛同する意向を示され、最後に、両知事は、これまでの交流の成果を踏まえ、今後も両地域における経済、医療等の分野の一層の交流促進を図ることに同意すること等を内容とする共同声明に署名した。

両知事の発言において、お互いの地域がそれぞれの得意とする分野での一層の協力や人材の交流を通して、互いの地域の将来の発展に結びつく積極的な姿勢を感じ取ることができた。今後、人々の交流や医療、経済等の結びつきによる両地域の益々の発展を期待するとともに、できる限りの協力を行いたいと強く感じた。



兵庫県・ハバロフスク地方友好提携50周年記念共同声明

日本国兵庫県とロシア連邦ハバロフスク地方との友好提携50周年を記念して、井戸敏三兵庫県知事及びセルゲイ・イワノビッチ・フルガル ハバロフスク地方知事が2019年8月20日に、ハバロフスク市において会見し、1969年4月に両県地方首脳が調印した共同声明に基づく友好提携の成果を確かめ合うとともに、今後の両県地方の友好提携関係を一層進めるために意見を交換した。

兵庫県とハバロフスク地方は、友好訪問団や文化・経済・青少年交流団の相互派遣、北東アジア地域自治体連合の取り組みの推進、ハバロフスク地方からの研修員の受け入れによる課題解決に向けた人材の育成、兵庫県コウノトリ保護増殖事業への協力、これら50年間の長きにわたる継続的かつ着実な交流の成果を踏まえて、今後も相互に協力することに合意した。

- (1) 両県地方は、両地域のさらなる経済発展に向けて、それぞれの経済界とも協力し、交易・投資の拡大による経済交流の増進に努める。また、ハバロフスク地方の投資プロジェクトの実現に向け、兵庫県関連企業の活動を促進する。
- (2) 兵庫県は、次代の両地域の交流と発展を担い、課題解決に取り組む人材の育成に向けて、ハバロフスク地方から海外研修員の受け入れを行う。
- (3) 両県地方は、HUMAPの交流枠組等を活用した大学生の学術・研究などの相互交流活動を支援する。
- (4) 両県地方はコウノトリの保護増殖事業の相互支援・協力を一層促進し、人と自然が共生する環境づくりに努める。
- (5) 両県地方は、これまで続けてきた青少年交流をより一層発展させるために尽力し、教育やスポーツ、文化など多様な分野において、世界で活躍できる人材の育成に努める。
- (6) 両県地方は、北東アジア地域自治体連合のさらなる発展を図り、地域間の交流活動促進に努めるとともに、防災など、地球規模の諸課題の解決に向けて協力する。
- (7) 両県地方は、両地域の住民と経済界が相互訪問する機会の拡大に努めるとともに、引き続き有する権限の範囲内で関西国際空港とハバロフスク間の航空便の開設に努力する。
- (8) 両県地方は、こども病院間の交流を相互に支援するとともに、医療技術の発展を目指し、人材育成や技術交流など、包括的に協力する。

2019年8月20日、ハバロフスク地方ハバロフスク市にて、本共同声明に署名する。

井戸敏三

兵庫県知事

井戸敏三

セルゲイ・イワノビッチ・フルガル

ハバロフスク地方知事
セルゲイ・イワノビッチ・フルガル

(2) 記念レセプション

○日時：令和元年8月20日（火）18:00～19:30

○場所：インツーリストホテル

○参加者：

（ハバロフスク地方）セルゲイ・フルガル知事ほか地方政府関係者 約30名

（兵庫県）井戸知事、県議会友好訪問団、県民交流団ほか 約70名

（在ハバロフスク日本国総領事館）福島総領事、諸富副領事

○内容：

兵庫県訪問団及びハバロフスク地方政府関係者希有約100名が参加し、盛大にレセプションが開催された。両知事からの祝辞の後、長岡団長からロシア語による乾杯のあいさつがなされ、また、県議会友好訪問団全員によるロシア語による「恋のバカンス」の合唱が披露され、会場は歓声に包まれた。和やかな雰囲気の中、参加者各々が交流を深めることができた。



II その他の調査の概要

(1) 日本人墓地墓参

○日時：令和元年8月19日（月）8:40～9:10

○場所：ハバロフスク市郊外

○内容：

兵庫県・ロシア連邦ハバロフスク地方友好提携50周年記念・兵庫県議会日ロ友好訪問団の調査は、初日8月19日朝一番に、ハバロフスク市街地から近い森の中にある、市営墓地の一角にある日本人墓地の墓参から始まった。

日本人墓地は、市営墓地の門を入ったところであり、陽当たりも良く、綺麗に草刈りがされていた。長岡団長が代表して献花し、全員で黙祷の後、個々に手を合わせた。

旧ソ連に抑留された軍人軍属死亡者約6万人の内、ハバロフスク地方での死亡者約8,400人、ハバロフスク市での死亡者約1,100人と推定されている。

飢え、極寒、重労働のいわゆる「三重苦」の中で力尽き亡くなられた兵庫県関係者9名を含む325名の将兵のご冥福を祈念し、早期の全てのご遺骨の帰還の実現を急ぐ必要を感じた。

また、市内中心部において、現在、公務員アカデミーとして利用されている建物など日本人抑留者が建設に携わった建物を見て、往時を偲んだ。



公務員アカデミー

(2) ハバロフスク日本センター

○日時：令和元年8月19日(月) 10:00~11:30

○場所：ハバロフスク日本センター

○説明者：石畠康充 ハバロフスク日本センター所長

○交流者：同センターにおける日本語学習者5名

○内容：

(ハバロフスク日本センターの事業概要)

日本センターは現在、ロシアに6か所あり、様々な日本関係の事業を行う拠点となっている。ハバロフスク日本センターは、1994年に開所し、将来的にロシア経済発展を支える人材の育成・教育に取り組んでおり、ロシアの日本センターでは最も古い。

同センターでは、具体的に、巡回講座・訪日研修（ロシア各地で経営関連の巡回講座を実施し、講座の成績優秀者には訪日研修も実施している。）、ビジネス日本語講座（親日派・知日派の育成とともにビジネス日本語習得を支援している。）などを実施してきた。

現在、日本センターの役割としては、技術支援から、日露経済交流促進のための事業に軸足が移っており、ロシア大統領プログラム「企業経営者養成計画」に協力している。その中で始まったのが、OJT研修（日本との経済交流の強化を目的とし、ロシア経済を担っていく人材に日本での企業視察、実務研修を実施している。）、現地企画講座（各日本センターがそれぞれ独自のアイデアに基づいたビジネス講座をロシア各地で展開している。）、ビジネス・マッチング、経済交流支援（関心企業の紹介、会合アレンジ、経済ミッション受入れ支援等により日露間のビジネス交流促進に貢献している。）

(主な実績)

1994年以降これまでに約86,000名が日本センターの各種講座を受講し、約5,400名が訪日研修に参加している（なお、ハバロフスク日本センターで実施したセミナーの参加者は6,300名で、約950名が訪日研修に参加している。）。ロシア各地で有力な企業家・自治体幹部を輩出しており、その同窓会参加者との人的ネットワークがビジネス・マッチングの重要なツールとなっている。



また、日露間のビジネス関係構築や経済交流への協力だけでなく、日本や日本文化への理解を深め、日露の架け橋を構築することを目的としているところ、ハバロフスク日本センターにおいても、毎年9月から翌年6月まで、日本語講座を実施している。同センターの日本語講座は、初級から上級の5クラスに分かれ、現在66名が在籍（うち、58名が各クラスでの試験に合格。）。来年度の申し込みは既に72名いるが、所長によると毎年、半数に減るといふ。日本語講座を5年修了した者で、日本語能力検定N2レベル取得が目安である。

ハバロフスク日本センターが実施しているOJT研修、現地企画講座、ビジネス・マッチング、経済交流支援を通じ、日露の経済交流が促進されていること、また、同センターがロシアとの経済的、文化的交流の拠点として重要な役割を果たしていることを強く実感した。

（日本語学習者との交流）

同センターにおける日本語学習者、①セルゲイ・トゥルキン（卒業生）②リュドミラ・フィリップワ（4年生）③アナスタシア・ボフカロワ（3年生）④ポリーナ・スモリナ（3年生）⑤レオニード・キリロフ（2年生）から、日本語で自己紹介を受けた。

その後、2グループに分かれ、日本語を学んだ理由、日本への印象、ロシア文化など様々なテーマで意見交換を行った。

レオニード・キリロフ氏は、ロシアのコルフォフスキー村に居住しているところ、同村では、日本人抑留者の慰霊碑があり、また、今年3月23日には、初めて、国際文化祭「コルフォフスキー村における日本の日」が開催されるなど、文化交流がなされているとのことである。キリロフ氏は、県において人口規模等が似ている神河町などとの姉妹都市提携を強く希望しており、今後、さらなる交流が期待される。

同センターでの日本語学習者の中には、日本の都市との姉妹都市提携を強く望んでいる学生や、日本の温泉などの文化、アニメ文化などに強く関心を寄せている学生がおり、



日本をととても友好的に感じている方々が多いことを実感できた。学生らのような親日派・知日派の方々がハバロフスク日本センターを通じた事業でさらに増加し、今後ますます日露の交流が深まることが期待される。

もともと、様々な理由により日本企業のハバロフスク地方への参入がなかなか進まないなど、課題もある。ハバロフスク地方と友好提携 50 周年を迎えた本県として、今後、課題の克服に向けて、議会から友好事業を応援していくことを強く決意した。

○主な質疑

Q ビジネスにおいて、日本とロシアの最大の違いは何か。

A 日本では、ボトムアップのケースが多いが、ロシアは完全にトップダウン方式である。また、日本企業は投資に慎重だが、ロシアはかなり積極的である。

Q ハバロフスクへの中国企業の進出などの様々な変化があるように思うが、どのような状況か。

A 極東ロシアは日本に近いので、ソ連崩壊後、日本企業の参入が始まったが、市場経済が覚束ないまま参入したため、撤退する企業も多かった。また、現時点でも、日本企業による目立った参入は少ない。現在では、ウラジオストクへの観光客（中国、韓国等）が増加し、進出企業も増加している。

Q ロシアにおける女性の活躍はどのような状況か。

A ロシアは、ソ連時代の社会主義の影響が強く、男女平等が徹底しており、社会で女性が活躍している。女性の方が男性よりも自立している印象もある。



(3) ハバロフスク地方自然保護区統括センター

○日時：8月19日(月) 14時～15時30分

○場所：ハバロフスク地方議会会議室

○説明者：アンドロノフ・ウラジミール所長（国営自然保護区管理会社社長）

アンドロノバ・リマ研究員（国営自然保護区管理会社研究員）

サビートフ・アレキセイ ハバロフスク地方政府天然資源省環境保護委員会
会長

○内容：

同センターは、ハバロフスク地方全域における自然保護区を統括している。アンドロノフ所長は、昭和60年のハバロフスク地方から本県へのコウノトリ譲渡を主導したことから、今回、同センターによるコウノトリの保護増殖に取り組むについて調査した。

ロシアでは、レッドデータブックに登録される絶滅危惧種の保護に取り組んで

いるが、コウノトリは極めて数が少なく、調査では、極東で約550ペアのコウノトリが雛を育てており、また、ハバロフスクでは210か所の巣があることが確認されている。

コウノトリは広い森林地帯や湿地帯を好み、高い木に巣を作る。これまでに、条例をつくり、自然保護区を拡大し、一羽一羽を大切に保護してきた。しかし、野生の鳥なので難しい面があり、山火事による生息区域の減少、送電線鉄塔への営巣による経済的損失、クマが木をよじ登って雛鳥を襲撃することなどに対して、被害を減らす具体策を講じているとのことであった。

また、ハバロフスクでは産業発展が著しいが、産業活動が自然環境に悪影響を与えないことが大切であり、厳しい制限をしていく。また、空気や水、餌となる魚や虫をモニタリングし、コウノトリの生息にとって好環境となるよう、計画的に人間の活動を規制していく、という。





多面的プログラムによってコウノトリ保護を進める日本の研究者や市民の取組を高く評価し、また尊敬しており、協力して事業を進めていきたい。特に、健康診断や遺伝的研究を共同で行うことができれば嬉しい。日本では、コウノトリに関する市民への啓発や子どもたちへの環境教育プログラムが充実して素晴らしいので見習うとともに、県立コウノトリの郷公園を参考に博物館設置や土

産物などのグッズ開発をしたい、とのことであった。

最後に、コウノトリはロシアでは絶滅寸前ではなくなったが、私たちが守らなければ危険な状態になるので力を合わせて守っていかなければならない、との決意を述べられた。

県議会友好訪問団の北上団員からは、県立コウノトリの郷公園における直近の取組等について報告が行われ、最後に、アンドロノフ所長達が昨年コウノトリの郷公園を訪問した時の撮影動画を上映していただいた。



コウノトリの保護増殖事業における日本の成果への関心は高く、共同研究など一層の交流が期待されている。直面する課題は共通するところが多く、相互交流は両県地方にとって大変

有益だと考えられる。コウノトリを通じた取組を、人々の一層の友好にも繋げていきたい。



(4) プリामールスキー動物園

○日時：令和元年8月19日（月）16時～17時

○場所：プリामールスキー動物園

○説明者：ドリン・アンドレイ園長 ほかスタッフ2名

○内容：

同動物園は、ハバロフスク市中心街から北約20キロのところであり、創立は2002年、面積は6haで、年間約10万人の観光客が訪れている。園内には、ヒグマ、ホッキョクグマなどツンドラ地帯やタイガ密林地帯にすむ、極東ロシアを代表する約35種類の野生動物と鳥類が集められている。

また、この動物園には、怪我をして保護されたり、ツキノワグマのように母熊が殺されて保護された子熊など、飼育されている間に野生復帰が難しくなった動物も集められている、ということであった。

同園は兵庫県と交流のつながりがあり、兵庫県の県鳥であるコウノトリの繁殖・生育のため、昭和60年にハバロフスク地方から6羽を受贈し、さらに平成11年、15年、16年と各2羽ずつ受贈しているが、平成24年に兵庫県からハバロフスク地方

へ寄贈された4羽が、同園内のケージ内で飼育されていたという。残念ながら、現在は、そのうち3羽が死亡し、残る1羽はモスクワ動物園へ移送され療養しているということであったが、コウノトリの研究はこの動物園でも積極的に進めており、ハバロフスクの自然保護区内で生まれて成長した1羽が、当日は見ることはできなかったが、同園で保護されているという。

園長からは、コウノトリの郷公園の取組を実際に自分の目で見てみたいこと、日本の研究者との交流をぜひ積極的に進めていきたいこと、また、姉妹都市のように姉妹動物園ができることを期待しているとの発言があった。



兵庫県鳥でもあるコウノトリを通じた交流が続いていることはとても感慨深い。本県が寄贈したコウノトリが現在ハバロフスクに存在していないことは残念に思われ、モスクワ動物園からの復帰など何らかの対応が望まれる。50周年記念事業の中で、井戸知事からフルガル知事に対して、再度兵庫県からハバロフスク地方へコウノトリの寄贈を検討したいとの話があったが、ハバロフスク地方側の積極的な対応を期待したいと強く感じた。



(5) ハバロフスク地方議会

○日時：令和元年8月20日(火) 11時～12時20分

○場所：ハバロフスク地方議会

○対応者：セルゲイ・ルゴフスコイ議長

タチアナ・モフチャン自治体行政委員会委員長

セルゲイ・ロマシュコフ文化・スポーツ・青年対策委員会副委員長

セルゲイ・ソクレンコ建設・公共サービス事業委員会委員長

セルゲイ・スタルニコフ議会事務局長

○内容：

冒頭、セルゲイ議長から、全議員を代表して友好訪問団の心からの歓迎と、9月に選挙を控えているため、36人議員がいるが少数人数でお迎えすることをお詫びすること、また、訪問団一同が今春の選挙で当選したことの祝福と今後の活躍を祈念する旨の挨拶があった。

続いて、長岡団長から、今回、ハバロフスク友好提携50周年にあたり、兵庫県議会友好訪問団としてお会いする機会をいただいたことへの感謝と、相互のハバロフスク地方と兵庫

県の実情について意見交換して相互理解を深めたいこと、現在議場の建て替えを検討していることから議場見学を希望したいこと、9月の選挙のご当選を祈念する旨の挨拶がなされた。

続いて、少子・高齢化と人口の一極集中を巡って意見交換が行われた。ハバロフスク地方においても兵庫県と似たような問題があるということであった。1990年代の混乱期は出



産することが不安な状況となり、出生率が下がり、その世代層の人口が少ない。連邦政府やハバロフスク地方政府が行っている施策として、子供の出生時の一時金が、2人目は連邦政府から、3人目は地方政府から支給される。また、毎月育児手当が支払われる。あわせて、子育て家庭の住宅ローンが5%に抑制されており、今後さらに2%に引き下げることが検討されているという。

(ロシアは物価上昇率が高いため、5%は低金利。)そして、極東からの人口流出を防ぎ、住民を呼び込むため、連邦政府から希望者に1ヘクタールの土地を無償譲渡される施策が実施されている。

寿命が延びるのは望ましいが、安定して社会保障サービスを提供するために、勤労世代が必要であり、そのため退職年齢の引上げが行われた。そして、意に沿わず引き続き働かなければならない人への様々な優遇措置が対策としてとられているという。

○主な質疑

【土地の無償提供による移住促進策について】

Q 国から譲渡される土地は農地か。また、どのように譲渡するのか。

A 用途は農地だけではない。希望者は誰でも可能だが、対象地は、市の利用予定地を除き、空いた土地ならよい。ウェブサイト上で空いた土地の地図が表示され、希望者が欲しい土地をウェブで選択できる。川沿いの土地が、農業もできれば観光客向け施設を設けることもできるため、人気がある。希望者は利用目的を予め申告することが必要で、最初の5年間は国から土地が貸与され、国に利用状況を管理されるが、5年経過後譲渡される。1人1ヘクタールのため、家族で4~5ヘクタール取得することもできる。市民がグループで土地を取得して小さな村を作った事例もある。



【女性活躍について】

Q ハバロフスク地方議会における女性議員の割合はどれくらいか。

A 5年前の選挙でハバロフスク地方議会36人中女性議員24人が選出され、後で2人増え、26人になった。今、36人中12人が女性議員である。そして、同地方議会の7つの常任委員会委員長のうち5人が女性議員が占めている。

同地方議会は女性が非常に活躍しているといえる。

Q 委員長に女性の割合が高い理由は何か。

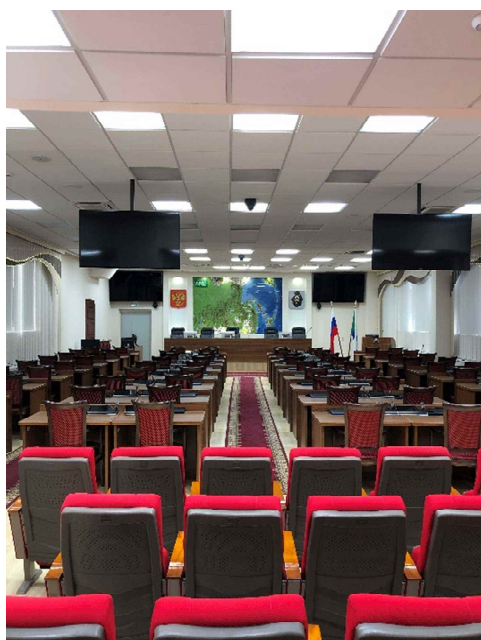
A 常任委員会委員長のポストに就くと、その業務に職業的に専念することが必要になる。男性議員は仕事を辞めなければならず、就任することが困難である。その点では女性がフレキシブルに委員長職に就きやすいと思われる。

その他、議員の兼職の状況や、選挙区の住民との関わり合い方、選挙活動の具体的方法について、情報交換を行った。

次いで、坪井団員が、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西のポロシャツを着用し、同大会のPRを行い、セルゲイ・ロマシュコフ文化・スポーツ・青年対策委員会副委員長と握手を交わした。セルゲイ・ソクレンコ建設・公共サービス事業委員会委員長はサッカーで毎回WMGに参加しており、2021年には日本の大会へ是非参加したいと述べ、大会の成功を願うことで皆が合意した。

最後に、ハバロフスク地方議会の議場見学を行った。

限られた時間であったが、同じ地方議会議員の立場で、有意義な意見交換が出来たと思われる。今後、さらに共通の課題等について理解を深め、友好を深めていきたいと感じた。



(6) 在ハバロフスク日本国総領事館

○日時：令和元年8月20日(火) 14時30分～15時20分

○場所：在ハバロフスク日本国領事館

○説明者：福島正則総領事、諸富学副領事

○内容：

福島総領事からハバロフスク地方の概要、経済・政治状況についての説明がなされた。

人口は、ハバロフスク地方 132 万 8 千人(年 2 千人減)おり、その内、在留邦人は 52 名いる。平均月収は日本円で約 9 万円だが、ロシア全国平均より 8 %程高い。失業率は 3.8%で、これもロシア全国平均 5.2%より低い。日系企業は、双日、コマツ、住商などの関連企業が進出している。ハバロフスクは、ロシアの 3 分の 1 の面積を管轄する東部軍管区司令部の所在地であり、地政学上極めて重要であるとのこと。



また、昨年9月知事に選出されたセルゲイ・フルガル知事について、小児科精神科の専門医出身で、国政野党であるロシア自由民主党であることをはじめ、就任後の活動や政治的な動きについて、また、現在、統一地方選挙期間中であり、与野党が激しく競り合っていることなどについて説明を受けた。

ロシアにおけるハバロフスク地方の地理的位置付けや、政治的役割について理解を深めることができ、非常に有意義であった。特に、今訪問時がハバロフスク地方議会の統一地方選挙期間中ということもあり、住民は選挙情勢について関心があることが感じ取れ、選挙結果による今後の動向が注視される。

当然のことながら、交流の促進には、現地のハバロフスク地方政府知事や地方議会との連携が欠かせないことから、選挙の結果によって大きく交流の方向性が変わることがないことが望まれる。

(7) 大ヘフツィール国立自然保護区

○日時：令和元年8月21日(水) 9時30分～11時30分

○場所：大ヘフツィール国立自然保護区、同保護区内博物館

○説明者：アンドロノフ・ウラジミール所長

エカテリナ・ユージナ研究員

サーシャ・ジェレゾブスキ政府職員 ほか

○内容：

ハバロフスク中心市街地から南へ20キロ、ヘフツィール山脈の両傾斜面に広がっているタイガ密林が、国立の大ヘフツィール自然保護区となっている。森林には樹木と灌木の種類が150種、草の種類は500種以上あり、北と南の種類が混じる。朝鮮五葉、アカマツを初めとする針葉樹と並んで、様々な種類のカンバ、満州タモ、カエデ、オニグルミ、野葡萄などがある。エゾウコギの仲間のエレウテロコック、朝鮮人参、タラの木、朝鮮五味子など薬用植物も多く多様な植物が存在している。また、ヘフツィールに生息する動物もきわめて多様で、ここには北方の動物黒テン、ヒグマ、キツネと共存して、南の動物アムール虎、マンシュウアカシカ、ツキノワグマなども住んでいる。

まず、自然保護区内の博物館で説明を受け、意見交換した。その後、自然保護区に入り現地調査を行った。

博物館には、自然保護区全体の立体模型、生息動植物分布図、動物の骨や昆虫の標本などが展示され、保護活動についての映像や、パネル展示、子供向けの動物足跡クイズなども行われており、毎年日本の小学生も見学に訪れているという。1963年に自然保護区に指定された経緯は、貴重な動物の毛皮や角、薬用植物を乱獲する密猟者から守るためであったという。そのためここでは、人間の影響を受けない環境を保つよう徹底しており、外来種が入ってくることはなく、もし少数入ってきたとしても自然淘汰されるという。この自然保護区は中国国境とつながっており、アムール虎などの希少生物が中国に入ることもあるが、人の手は入れず、帰ってくるのを待つという。博物館では、同自然保護区内に



多様な動植物が存在すること、そして、密猟者との長年の戦いの歴史が分かりやすく学ぶことができた。

自然保護区の現地調査は、一時間ほど歩いて行けるところまでではあったが、数多くの希少植物を確認することができ、豊かな自然環境が保たれていることが実感できた。道は人間数人が歩けるだけの幅の草を刈りとっただけであり、非常に歩きづらいが、極力人間の影響を受けないような配慮がなされている。

同自然保護区は広さ約4.5ヘクタールもあり、日本で考える自然保護とは、正直、一線を画するようにも思えた。コウノトリの保護活動を比べると、違いが分かり易く、日本の場合は無農薬農業にコウノトリを活用するなど、いわゆる人間との共存を見据えた保護活動であるのに対し、ロシアでは、自然そのまゝの環境を維持すること、人間が手を加えないことを理想とした保護活動を行って



いる。違いの原因は国土の広さにある。国土の狭い日本では、ロシアのように人間と動植物の生活圏を完全に隔離することは出来ず、どうしても生活圏が重ならざるを得ない。本県においても、限られた県土の中で、人間と動植物を隔離することが難しい中で、種の多様性を確保しなければならない。日本もロシアも、両者とも同じ“生物多様性を確保するための自然保護”であるが、取組方法はまったく異なる。

故に、その研究結果やデータを共有することには大きな意味があり、今後も相互の交流が欠かせないことを実感した。そして、本県の子供達にも、日本では体験することのできない広大なスケールの自然環境に触れ、未来の自然保護活動のあり方について考える機会を持って欲しいと感じられた。



(主な質疑)

Q 外来種から守るためにどのような対策を行っているのか。

A 外来種が入り込まないように、また人が入ることのないよう徹底して取り締まっている。

Q 近隣の村に保護区の動物が現れたときはどのような対応か。

A 定期的に村に調査員を派遣し、動物への対応方法などをレクチャーしている。

Q 生態系のバランスが崩れそうなき、絶滅しそうな種があるときはどのような対応をするのか。

A 基本的には、自然の成り行きに任せて見守るが、本当に絶滅しそうな種があるときには保護区内から他の場所や機関に移して対応する。

本報告書は、議会訪問団全体として下記の執筆者が共同で作成しました。

(共同執筆者)

団 長 長 岡 壯 壽

事務局長 小 西 隆 紀

団 員 森 脇 保 仁

” 大谷 かんすけ

” 福 島 茂 利

” 坪 井 謙 治

” 岡 つよし

” 奥 谷 謙 一

” 中 島 かおり

” 北上 あきひと

以上 議員 10 名